

パンチはチャンスの裏返し

新型コロナウイルスの影響で私たちの日常は大きく変化した。得体の知れないウイルスの恐怖に怯え、誰もが感染してしまう可能性がある頭では解いていながら、感染者やその家族、濃厚接触者や医療従事者などに對する誹謗中傷や偏見、差別といった心ない言動が大きな問題となった。悲しいことである。

たとえ、それが感染への不安や恐怖によるものであっても、人権侵害につながる行為は決して許されるものではないし、許してはいけない。

残念ながら未だ収束の兆しすら見えない状況と、物価の高騰も含め私たちの暮らしは『パンチ』の連続で、心安まる日が訪れるのがいつになるのか・待ち遠しい。

しかしそんな中でも違った視点から世の中を見てみると、これまで『差別』に無関心であった人たちも、コロナに関しての偏見や差別が社会問題として報道された事によって、感染を我が事として考えるきっかけとなった人も多いのではないだろうか？

何が『差別』を考えるきっかけになるかは人それぞれだと思うけど、言い換えれば人と人との『絆』を深める契機となる『チャンス』でもあるのではないかと最近思い始めた。

私たちは人との繋がりがあってこそ、社会生活が営め人生を豊かに送れている。その当たり前を忘れてはならない。

私たち人間関係を分断する『差別』をなくし、みんなが心豊かで幸せを感じられる社会を目指すため、あらゆる機会を無駄にせず、人権問題解消に向けての活動を実践していきたいと心からそう思う。

『ウイズコロナ』社会の今だから、なお一層強く思うのは、私だけだろうか？

